川柳マガジンクラブ東京句会　12月

平成21年12月13日（日）　駒込学園にて

参加29名　出席27名、投句2名
秋山和子、伊藤三十六、石崎流子、飯島圭子、ＥＬＶＩＳ、小倉利江、小野　貢、加藤晶子、菊地順風、河野桃葉、佐道　正、白勢朔太郎、関　玉枝、水野絵扇、高田以呂波、棚瀬くんじ、土江裕美、丸山芳夫、村田倫也、藤原栄子、星野睦悟朗、真野道雄、南野耕平、山田こいし、若山かん菜、甲野竜雄、松橋帆波、植竹団扇。
欠席投句
五十嵐淳隆、正木三路。

課題吟「今年のニュースから」

松橋帆波選

「佳作」

税金の墓標のような八ッ場ダム　圭子
ＤＮＡ無期懲役を助け出し　和子
米印得てヒットするおくりびと　エルビス
仕分け人首相のカネは仕分けせず　淳隆
着メロも必殺にする仕分け人　晶子
チルドレン雑巾掛けを命じられ　倫也
甘えてた安値デフレの罠を知り　利江
婚活に子供手当がぶら下がり　朔太郎
猛暑日のないこの夏の懐かしさ　芳夫
絵に描いた五輪と消えた都民税　以呂波
仕分けする人こそ仕分けして欲しい　倫也

「秀」

千円であなたと行けるところまで　耕平
院政の二字が死語から生き返り　朔太郎
政権交代こんなものかな革命も　晶子

「特選」

そう言えば貰ったような給付金　晶子
軸　無血革命内出血は終らない　帆波

「没句評」

「森繁が逝って昭和の芸が消え」
「白馬童子蹄の音が遠ざかり」
「もっと愛してハスキー麗子星になり」
「ノリピーがトップニュースのお国柄」

今年は有名人の訃報が多かった。しかしそれをテーマとした作品は、全体的に報告に終始してしまった。

「途上国にオリンピックは譲ろうよ」
「姥捨ての廃止信じて入れたのに」

作者の思いが強すぎて、作品としての共有制が弱い。

「そういえば飴を貰った気がします」

特選句と比較すると、具体性があるかないかで、アイロニーの強さに差が出ることが分かります。

「十人目名乗り出ようか思案中」
「タイガーは十一人か少ないな」

直近の事件だけに数字が入ると動いてしまう。本質は何人ではないと思うが。

「改革へ邪魔と言われた事務次官」
「巨人軍強く嬉しい江戸育ち」
「学園の庭で大麻が育ってる」
「マイケルの死亡記事には度肝抜き」
「ノリピーがあぶりをやって捕まった」

報告になっている、その事象について、作者がどう思うかが欲しい。

「今年のニュースから」という課題ではどうしても報告になりやすい。その事象に対する思いが出すぎると、作品としての共有性が弱くなる。その辺のバランスを考えていただければ良いと思います。また、今年のニュースと限定できない作品で、良いものがありました。ミシュラン、日蝕、裁判員制度などを扱ったものです。次点としてご紹介いたしました。

◎続きまして特別企画

「一語摘み」というものをご紹介いたしました。短歌の世界ではよく行なわれているようですが、前の句から一語を取って歌を詠み、次の人はその歌から一語を取って詠む、次の人もまた・・と、一語ずつ取りながら句をつなげていく趣向です。これを川柳で行なうのですが、十七音字と語句が少ないこと、参加者が多数であることを考慮して、今回はこういった趣向もありますよ、というお話にして、すべて漢字でできた作品から一字を取って皆さん同時に作句して頂き、世話人が一句ずつ読み上げ、その場でいただき選（手を上げて「いただき！」と声を上げる）で得票をまとめ、句評を頂くという手法を採りました。

一字漢字詠み込み

課題「民営化茫然自失伏魔殿」

選考は「頂き選」を採用

（ルールに拘らず、点数が入った作品を掲載。）

15点句

じっと見ていると伏字が読めてくる（伏）芳夫

伏字とは活字の世界では俗に下駄という。校正の過程の用語。それをご存知だったのかと意表を突かれた。三十六戦中のアカ本を思い出した。くんじ

14点句

自販機が人様よりもいい愛想（自）貢

13点句

厚化粧徐々にはがれるマニフェスト（化）正

髭の様には茫々と生えぬ髪（茫）団扇

※（茫茫の意味ですので、二字取りになってしまいす）

8点句

天然の母をぎゅうっと抱きしめる（然）帆波

4点句

自分史を書く気にさせた古希の坂（自）玉枝

大魔神ゆるキャラになり再デビュー（魔）かん菜

2点句

営業はつらいよ夜中までヨイショ（営）睦悟朗

テポ丼をこさえる自由食らってる（自）エルビス

1点句

化けるかもしれないという生卵（化）耕平

温暖化生態系を狂わせる（化）利江

化粧法教えて美女に叱られる（化）三十六

代わり映えしない化粧の妻が居る（化）栄子

違反キップ避けたいばかり妻に化け（化）順風

文化とか言ってカラオケ大ホール（化）竜雄

自助努力あなたは運のことばかり（自）朔太郎

失恋の旅思わぬ恋にまた出会い（失）絵扇

今年こそ破魔矢に託す職探し（魔）以呂波

政権交替糸を操る陰の殿（殿）こいし

ガラポンとお笑いばかり出る選挙（民）品子

※（文字が詠み込まれていませんでした）

◎続いて「中七川柳」です。

「中七川柳」とはその名の通り「中七」を作っていただくお遊びです。ま

まず、上五だけが書かれた句箋をお配りします。

今回は「運のいい」という上五にいたしました。そこへ参加者それぞれに勝手な下五を書いていただきます。それを回収し、改めてばらばらに皆さんへ配ります。その「運のいい」という上五と、誰が書いたか判らない下五が書かれた句箋に、意味が通るような「中七」を作っていただくわけです。同じように下五だけが書かれた句箋を使って上五を書いていただきます。今回の下五は「それっきり」でした。

ポイントは、とにかくつながりにくい上五、下五を書き込んでおくことです。

「中七川柳」（上五　運のいい）

選考　植竹団扇

運のいい　人から貰う　肝っ玉　品子

運のいい　縁談話し　蕎麦がのび　くんじ

運のいい　妻さずけてと　神頼み　利江

運のいい　雪の降ってる　クリスマス　竜雄

運のいい　人だが妻に　見放され　倫也

運のいい　船に乗り込む　策がない　かん菜

運のいい　当りクジだと　はやとちり　貢

「秀位」

運のいい　棚ぼた餅に　落とし穴　栄子

運のいい　夢の着地が　決まらない　芳夫

運のいい　藁を信じる　絵空事　エルビス

軸　運のいい　話だけ読む　Eメール　団扇

「中七川柳」（下五　それっきり）

選考　甲野竜雄

パピプペポ　別れの言葉　それっきり　絵扇

イケメンが　見せたウインク　それっきり　利江

ありふれた　恋文来たが　それっきり　以呂波

衣食住　借金のかた　それっきり　睦悟朗

熱愛の　スクープ以来　それっきり　帆波

雪降って　不倫の宿の　それっきり　団扇

これっきり　メル友だから　それっきり　順風

「秀位」

半ズボン　脱がされたまま　それっきり　耕平

魔女だって　ネットに迷い　それっきり　こいし

今何時　夫婦の会話　それっきり　かん菜

軸　あなたとの　愛の過去など　それっきり　竜雄

◎最後は「台無し川柳」です。
これは上五、中七まで書かれている句箋の下五を作っていただくのですが、「上五、中七」で表現されている世界を、台無しにするような下五を作るのがルールです。
今回のお題は
「君がいて　僕がいたから」という上五、中七です。これに下五を加えて台無しにしていただきます。
「君がいて　僕がいたから　虹が出る」や
「君がいて　僕がいたから　あたたかい」
などの美しいオチはダメなのです。

「台無し川柳」

課題「君がいて僕がいたから」

選考　松橋帆波

君がいて僕がいたから　子　沢　山　エルビス
君がいて僕がいたから　酒になる　正
君がいて僕がいたから　スキー事故　竜雄
君がいて僕がいたから　不倫する　栄子
君がいて僕がいたから　ホモになる　睦悟朗
君がいて僕がいたから　妻が逃げ　利江
君がいて僕がいたから　離婚する　栄子
君がいて僕がいたから　借　金　苦　圭子
君がいて僕がいたから　蛆が沸き　和子
君がいて僕がいたから　ゴミ屋敷　玉枝
君がいて僕がいたから　務所暮らし　倫也
「特位」
君がいて僕がいたから　薬　づ　け　順風

君がいて僕がいたから　秘書が逝く　帆波

「台無し」という意味は「句会で抜けない」という意味ではない、ということをご理解いただき、もっと自由に、思い切った表現を考えてもらえればと思います。
句会で抜ける抜けないという、狭い世界での共有性に捕らわれることなく、下五で句がどのように変わってしまうのかを体験していただきたい、というのが目的です。
普段考えている「これはダメだ」ではない「台無し」があるのを知ることで、より広い着想のきっかけになれば幸いです。

以上

まとめ　松橋帆波